

現状

○グループホーム設置数 129ホーム(平成25年7月1日)

種別	ホーム数
①施設分園型グループホーム(都型)	59ホーム(うち民間55ホーム)
②地域小規模グループホーム(国型)	57ホーム(うち民間56ホーム)
③小規模グループケア地域型ホーム(国型)	13ホーム(民間のみ)

○グループホーム入所児童の状況(平成25年7月実施アンケートより)
(調査対象児童数 730名)

- ・被虐待児童 ⇒ 41.4%
- ・発達障害 ⇒ 12.6%
- ・特別支援学校・学級 ⇒ 9.3%
- ・病院への定期通院 ⇒ 20.8%

○国の動向 [社会的養護の課題と将来像]

- ・児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進
- ・概ね3分の1が、グループホーム

効果検証

◆グループホームアンケート調査結果より(平成25年7月実施)
(条件が同一の民間児童養護施設124ホームの状況)

○本園においての寮舎運営を「普通」とした場合、グループホーム運営による児童・職員への効果について

- ①施設長へのアンケートより(有効回答43施設)
 - ・児童への効果 「大きい」、「やや大きい」 ⇒ 91%(39施設)
 - ・職員のモチベーション 「大きい」、「やや大きい」 ⇒ 72%(31施設)

○グループホーム事業についてどのように感じているか。(グループホームへのアンケートより)

質問内容	「そう思う」、「ややそう思う」
①児童の生活が落ち着いた。	87%(109ホーム)
②より家庭的な養護が実践できる。	94%(116ホーム)
③食に関する知識を醸成できる。	94%(116ホーム)
④個別に自立を意識した見守りができる。	76%(93ホーム)
⑤地域との関わりをもって生活できるようになった。	83%(102ホーム)
⑥児童一人ひとりに、きめ細やかなケアができるようになった。	85%(103ホーム)

○上記以外で、グループホーム事業の良いと思う点

内容	ホーム数
施設を意識せず一般家庭と同じように暮らせる	34
子供の特性に合わせ柔軟な支援が行える	27
子供一人ひとりの状況が把握しやすい	16

安定的な養育への効果大

今後の方向性

○家庭的養護を推進するために ⇒ 全ての施設でグループホームを実施

主な課題

(グループホームへのアンケートより)

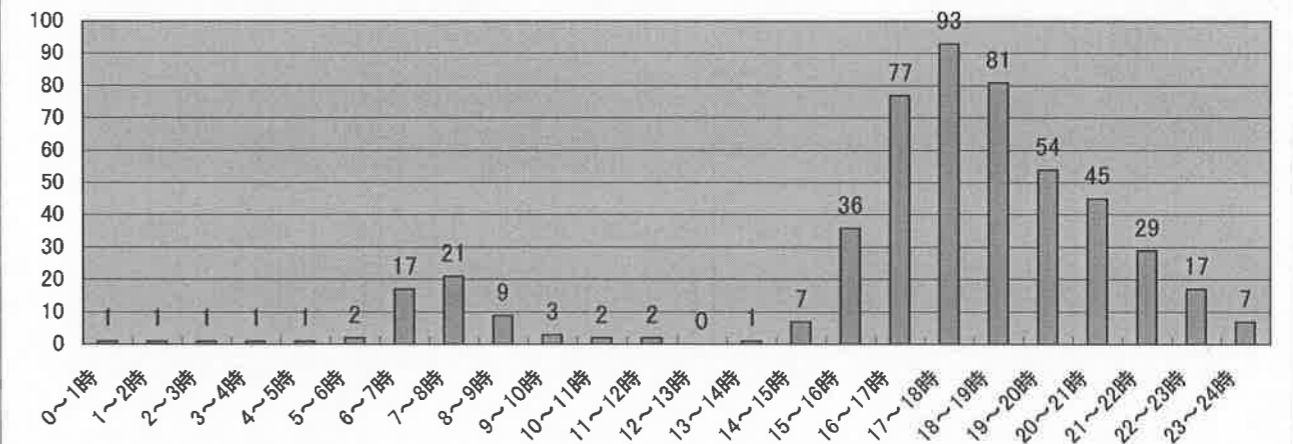
○児童を支援する上で、グループホームの難しさ・苦勞することは

内容	ホーム数
子供の問題行動や不穏な状態の対応が困難	48ホーム
緊急時や学校行事等は一人では対応できない	40ホーム
人間関係が煮詰まりやすい	34ホーム

○グループホーム職員の疲弊感・孤立感について

質問内容	「大きい」、「やや大きい」
疲弊感	55.6%
孤立感	52.5%

○グループホーム職員が忙しいと感じる時間帯



- 職員は1人で夕食の準備・入浴支援・宿題指導等様々な業務に追われ、一人ひとりの児童に十分な個別的ケアが出来ない
- 子供たちが学校から帰宅する時間から夕食終了までの時間帯に職員体制の充実が必要

課題への対応

○求められる対応 (アンケート調査から)

- 疲弊感解消に必要な仕組み
- ・人員増や複数の職員体制
 - ・休憩(息抜き)スペースや休暇
 - ・相談しやすい環境づくり
 - ・負担軽減の勤務体制(複数)

グループホームの安定的運営に必要なもの

- ・職員体制、職員の育成
- ・職員の複数体制・増員
- ・本園からのスーパーバイズ

○求められているもの(検討・対応すべきもの)

- ・子供の変化や特性に対応した支援の確保